

各 種 委 員 会 報 告

令和五年度 国際交流委員会活動報告

委員：河村好章、鍋倉智裕、村木克彦、李辰竜、浦野公彦、安藤基純、松村実生、河原昌美
事務担当：市田麻友美、大場靖之

新型コロナウイルス感染症の流行による研修中断を経て、海外との交流が再開された一年となり、多くの行事を実施することができた。

1. ウェスタン健康科学大学薬学生研修受け入れ (2023 WU Student Summer Elective)

日時：2023年6月19日～21日

研修者：Britney Nguyen (2年生), Taylor Gahub (2年生)

薬学部のキャンパスツアー、Welcome Party、講義、実習、学生交流会に加え、日進キャンパスにおいて、坐禅体験、English Lounge でも学生交流をした。また、名北調剤では日本の在宅医療の見学、スギヤマ薬局ではドラッグストアと漢方薬局の見学を行い、日本と米国の違いを紹介した。エーザイ川島工園に出かけ、製薬企業の歴史、薬草園及び工場を見学し、名古屋市立大学病院も見学した。また、週末は学生たちと観光を楽しんだ。



2. 韓国漢陽大学研修

日時：2023年8月7日～10日

研修者：1年生1名、2年生4名、3年生3名、4年生2名、5年生2名の計12名が参加した。

漢陽大学病院訪問、韓方市場及び韓方博物館の見学、ソウル大学医学博物館見学、The Joeun 薬局訪問、韓国薬剤師会会営薬局訪問を行い、日本と韓国の相違を学んだ。また、漢陽大学薬学部との合同シンポジウムで李准教授の講演、学生の発表を行った。シンポジウム終了後は、参加者による交流会において、英語や韓国語での会話を通して理解を深めた。



3. 米国薬学研修

日時：2024年2月19日～3月1日

研修者：2年生4名、3年生3名、5年生4名の計11名が参加した。

今回から、自由選択科目として1単位が認定されている。詳細は別途報告するが、急激な円安の影響を受け開催が危ぶまれる中、研修期間を7日間に短縮し、さらに、愛知学院大学薬学会からの助成をいただき研修を実施することができた。学生たちは、参加型の研修で多くの刺激を受けグローバル社会のコミュニケーション力を醸成した。

(文責：河原)